私の思い出写真館

吉田総理との出会い

緑会大会当日吉田元総理を囲んで。総理の右隣が筆者

緑会大会で挨拶する筆者

本田 勝彦
日本たばこ産業
相談役

昭和 38 年、大学在学中に、子供のころから憧れ、尊敬していた元総理大臣吉田茂氏にお会いする感動的機会に恵まれた。

吉田さんが総理大臣在任中（昭和 21 ～ 29 年）、私は小学生で、その政策や功績等について理解できるはずもなかったが、その格好良さからか、子供心に吉田さんに憧れていた。その後、大学に進学し、政治に関心を深めるようになってからも吉田さんに対する気持ち、憧れは変わらなかった。その私が大学 3 年の時に吉田さんに会う機会を得て、感激一入。

東大法学部の自治会「緑会」は、毎年秋に各界で活躍されている諸先輩をお招きし、法学部の学生、教授が一堂にそろって講演会、懇親会等の行事を行っていた。たまたま私は昭和 38 年の緑会大会実行委員長を拝命し、招待者の一人として吉田さんを提案したところ、委員全員の賛同を得て、びっくりすると同時にほっとした。というのも、当時は、60 年安保騒動後 3 年経ったばかりで、緑会委員のほとんどが左翼系だったので、反対されるのではと危惧していたが、彼らの主義、主張に吉田さんの魅力が勝ったと納得した次第。ご出席いただけるか心配したが、快く引き受けていただき、感謝、感激。

緑会大会で講演される吉田元総理

当日の大会は、吉田さんの参加もあって例年になく大盛況で、吉田さんのお話は、大変ユーモアのある、有意義な講演で、出席者全員大喜びだった。

緑会大会終了後、“週刊朝日”で吉田さんが「……緑会から、来て話をしろと言ってきた。不思議なことだ。……私は東大から破門されたと思っている。南原繁君を『曲学阿世（きょくがくあせい）』と罵倒したのだから。……来てくれと言われるとなんとなく行ってみたくなった」と語っておられるのを読んで大変嬉しく、結果として、吉田さんの心の中の破門を解くことになった。

4 年後の昭和 42 年に、吉田さんは亡くなられた。

＊＊＊

昨今の国際情勢、日本の政治混迷等に思いを致すとき、政治家の皆さんに、『宰相吉田茂』（高坂正堯著）の一読をお薦めしたい。